CORONA

密閉式石油ストーブ

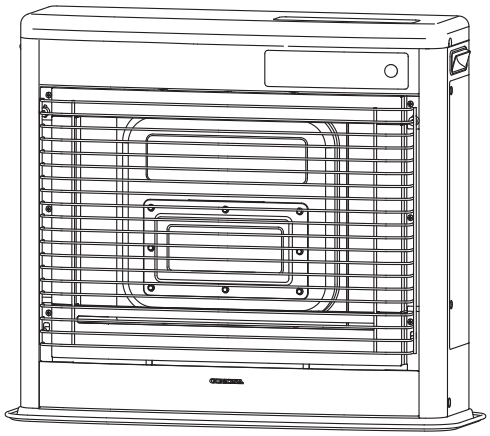
取扱説明書

〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

正しく使って上手に節約

型　式　エフエフ　アイアール **FF-IR6823**　FFタイプ　FF式輻射

ユー エイチ　エフアイアール **UH-FIR7023**　UH-Fタイプ　FF式輻射＋床暖



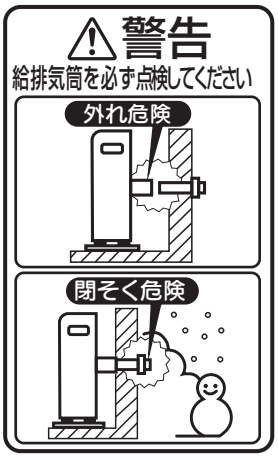
このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

フィルネオ オーナーズサイト

型式：FF-IR6823
UH-FIR7023

QRコードを読み取ると取扱説明書の閲覧や修理受付などにアクセスできます。





もくじ

ページ

1 特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）— 1～3
＊灯油の廃棄について — 3
2 使用する場所 — 3
3 各部の名称 — 4～6
●外観図・構造図 — 4
●表示部・操作部 — 5～6
4 使用前の準備 — 7～8
●燃料 — 7
●給油 — 7～8
●運転開始前の準備と確認 — 8
5 使用方法（使い方） — 9～18
●点火（運転開始）・消火（運転停止） — 9
●室温の調節 — 10
●eco（エコ）運転 — 11
●ストーブ床暖房運転とストーブ運転の切換えのしかた — 11
●床暖パネルの温度調節 — 12
●スマート床暖房運転 — 12
●サポートヒータ運転 — 13
●クイック微少運転 — 13
●チャイルドロック — 14
●現在時刻の合わせ方 — 14
●タイマーの使用方法 — 15
●eco（エコ）ガイド — 16
●使用上の注意 — 17
●自己診断モニタについて — 18
6 安全装置 — 19
7 その他の装置 — 20～21
8 日常の点検・手入れ — 21～23
9 定期点検 — 23
10 設計上の標準使用期間 — 24
11 故障・異常の見分け方と処置方法 — 25～26
12 部品交換のしかた — 27
13 保管（長期間使用しない場合） — 27
14 仕様 — 28～29
15 アフターサービス — 29
16 据付け・移設 — 30～33
17 お客様ご相談窓口 — 34
■ 保証書 — 裏表紙

株式会社コロナ

1 特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

⚠	このマークは、「注意」していただく内容です。
	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

⚠ 警告（WARNING）

ガソリン厳禁



ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも火災の原因になります。

スプレー缶厳禁



スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風のあたるところに放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

給排気筒（管、ホース）外れ危険



給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

給排気筒トップには金網などは付けない



給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があり危険です。

定期点検の実施



定期的（2 年に 1 回程度）に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者のいる店に依頼してください。

低温やけどに注意 （UH-Fタイプ）



長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低い温度（40 ～ 60℃）でも低温やけどや脱水症状の原因となります。

ご自身での据付け・移設工事の厳禁



お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。（ストーブを移設させる場合も同じです。）

衣類の乾燥厳禁



衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。

温風吹出口をふさがない



衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。
ストーブの前に干し物を掛けたり、カーテンなどで背面の空気取入口がふさがれると、本体が過熱して、操作部が変形したりやけどや故障・破損するなど大変危険です。

可燃物近接厳禁



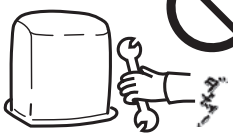
カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
可燃物との離隔距離については、「標準据付け例」（30 ページ）を参照してください。

給排気筒トップ閉そく危険



給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の、妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

改造使用の禁止



改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。
安全装置の無効化など機器の安全性を損なう改造は火災など思わぬ事故の原因になります。

外付け装置による遠隔操作厳禁



スマートフォン、IT機器を使ってストーブの運転を操作する外付け装置※は安全性を確認できないため、使用しないでください。

※操作部付近に設置し、インターネット通信などで操作スイッチを押すことのできる装置

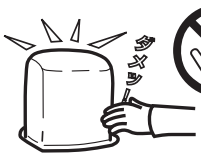
⚠注意(CAUTION)

異常・故障時使用禁止



油漏れやにおい、すすの発生、炎の色、エラーを繰り返すなど異常や故障と思われるときは使用しないでください。
事故の原因になります。「故障・異常の見分け方と処置方法」(25～26 ページ)に従って処置してください。

高温部接触禁止



燃焼中や消火直後は、高温部(前パネル・枠側面・前面ガードなど)、給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

●小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。
ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

電源コードを傷めない



電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

指や異物を入れない

前面ガードの中や空気取入れ口などに指や可燃物・針金などの異物を入れないでください。
けがや火災の原因になります。

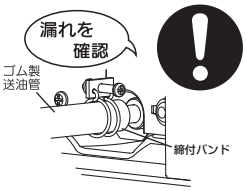
フィルタを外しての運転禁止

対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。
また手などふれるとけがをするおそれがあります。

電源の接続

電源は適正配線された単相 100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で接続したり、延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。

油漏れ確認



油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

ゴム製送油管の点検・交換

ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがない場合でも 3 年に 1 度は新しいものに交換されることをおすすめします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります

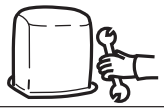
カーペットのはがれに注意

UH-Fタイプ



カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。

分解修理の禁止



故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は、危険です。

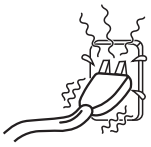
温風に直接あたらない



温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

●特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、 周囲の人が十分注意してください。

電源プラグは確実に差し込む



電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

ほこりの除去



フィルタは、週 1 回以上必ず掃除してください。ごみ・ほこりなどでフィルタがつまると、送風力が弱くなり、排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。

不良灯油使用禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。

灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光をさけた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけるなど部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

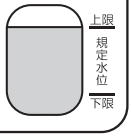
循環液(循環水・不凍液)の保管に注意

UH-Fタイプ



幼児の手の届かない所に保管してください。万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。

シスターンの水位に注意 (UH-Fタイプ)

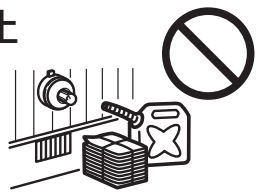


循環液は少しずつ蒸発します。1 ヶ月に 1 回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。また、上限水位より多く入れないよう注意してください。入れすぎると使用中に循環液があふれることがあります。

⚠注意(CAUTION)

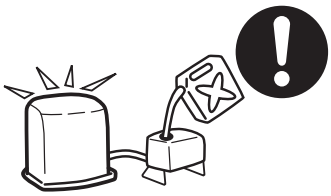
給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。



給油時消火

火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。



外出する時は消火

外出するときは、必ず運転を停止し消火してください。

特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。

お願い(NOTICE)

機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、レベラタンクの灯油を抜き取ってください。
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。
必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。

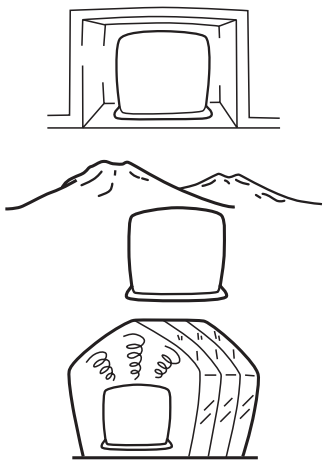
灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買いあげになった販売店にご相談ください。

2 使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために



●マントルピースなどに据付ける場合は、標準据付け例に従ってください。(30ページ参照)

●空気不足となり、異常燃焼の原因となるので標高が１５００m以上の場所では使用しないでください。
標高２００m～１５００m未満で使用される場合は調整が必要です。
(詳しくは、工事説明書 **高地または延長給排気で使用の場合** をご覧ください。)

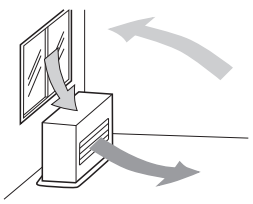
●クリーニング店・美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。

●乾燥室、温室、飼育室など、動植物の育成・栽培に使用しないでください。
●水平でない場所、不安定な場所では使用しないでください。
●不安定な物をのせた棚などの下では使用しないでください。
●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所では使用しないでください。
●階段、避難口などの付近で避難に支障となる場所では使用しないでください。
●ストーブ下面に毛足の長いじゅうたんや熱に弱いものを敷かないでください。
●ストーブ前面付近には熱に弱いものを置かないでください。

効果的に使用するために

窓の下や壁面に設置

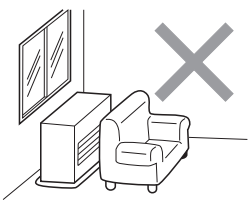
●外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので効果的です。



(ご注意) **ストーブの前面に障害物を置かないでください。**

●障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、本体の温度が上昇して危険です。

●ストーブの前面の空間を広くとれる場所を選んでください。



(UH-Fタイプ)

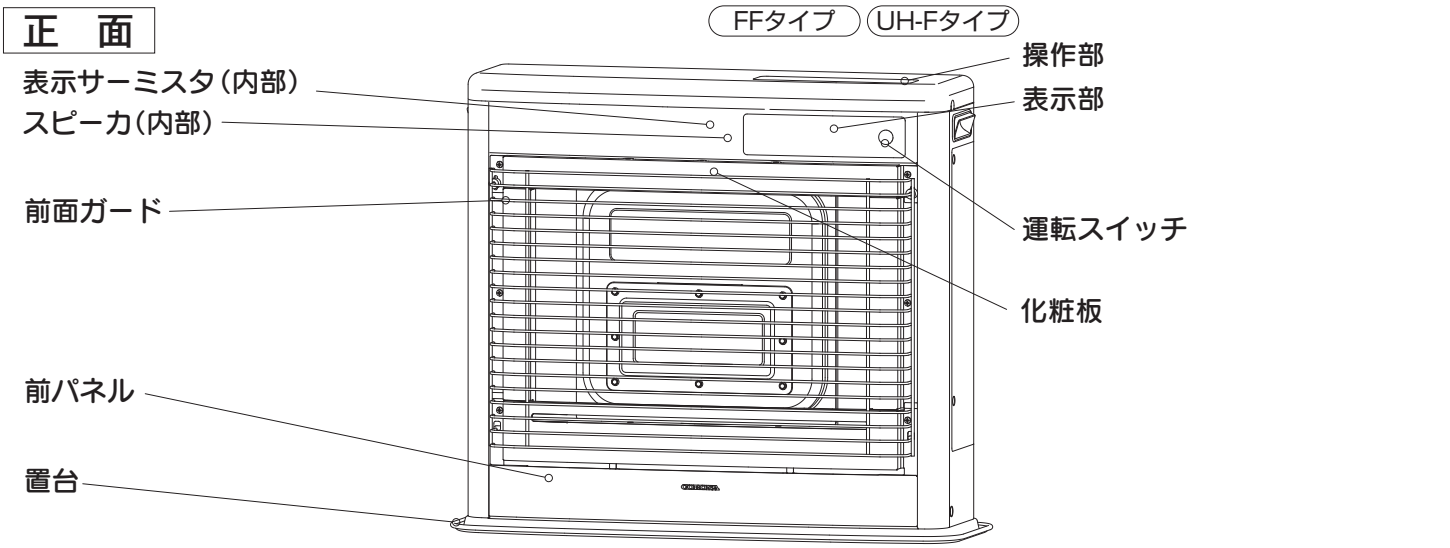
●ストーブ前面からは輻射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。
●温水配管の長さができるだけ短くなるように床暖パネルを設置してください。

3 各部の名称

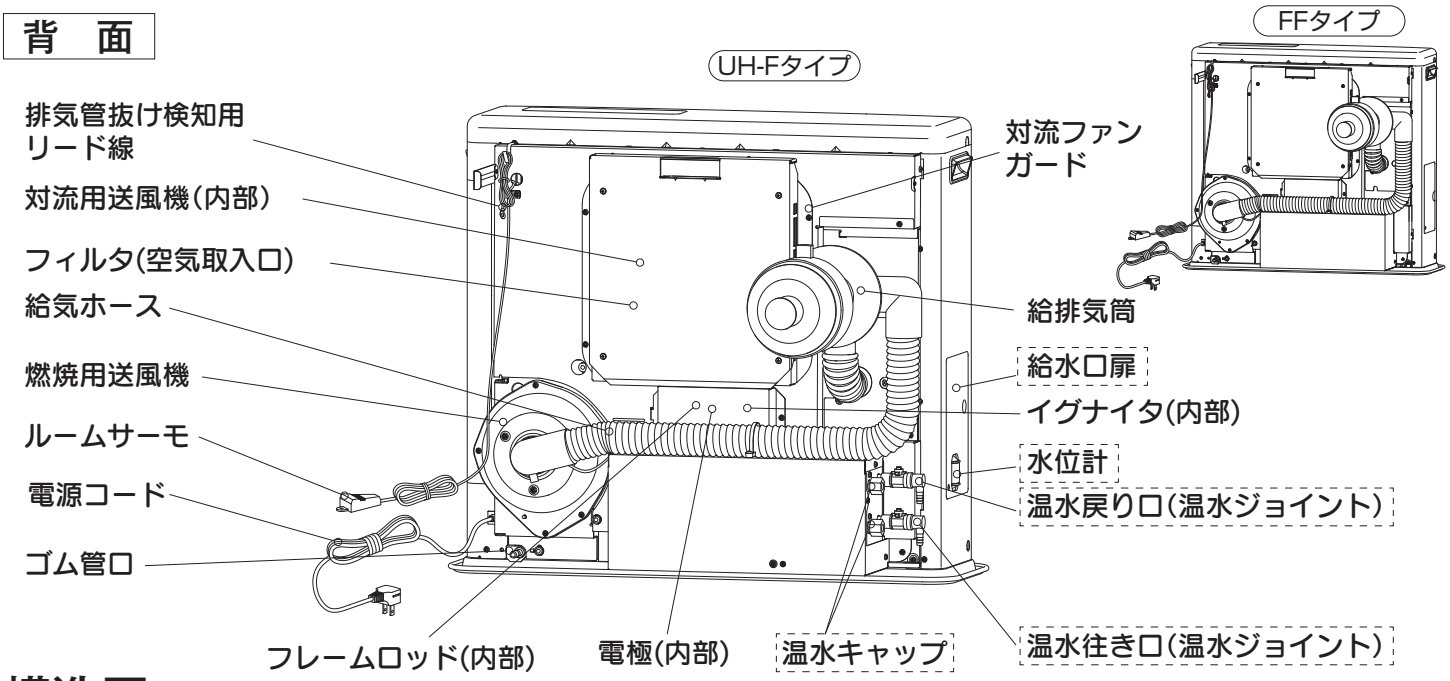
外観図

[ ] は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

正　面

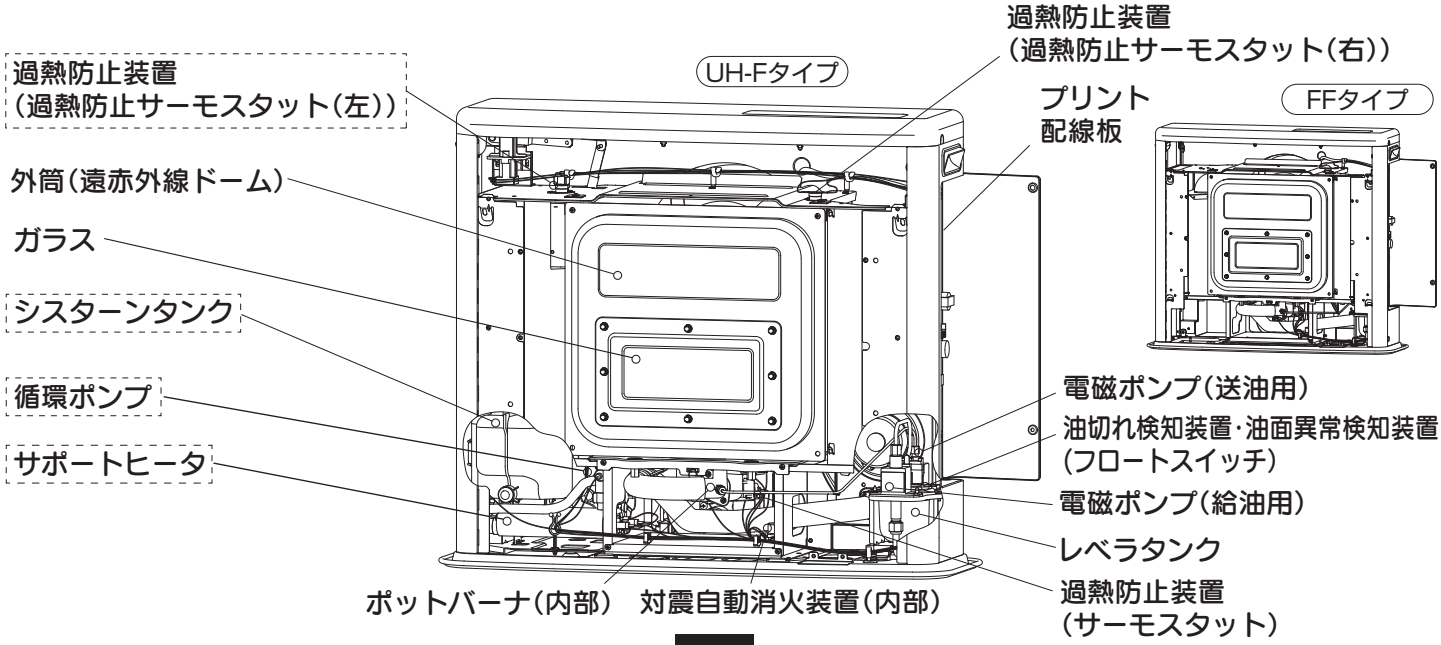


背　面



構造図

[ ] は (UH-Fタイプ) のみ対象です。



表示部の名称と働き

表示部

★イラストは説明のため全部表示した状態にしてあります。

UH-Fタイプ

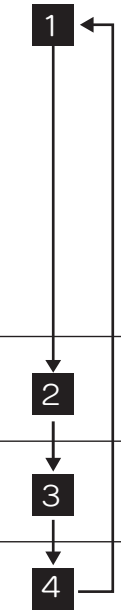


FFタイプ



注）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

項目(主な操作の表示)	デジタル表示部	内　容	表示切換
現在時刻表示 温度表示		●自動運転中（ストーブ単独運転） ・現在時刻表示　・設定温度表示　・室内温度表示 ・「自動」表示　・火力をグラフで表示	時刻設定ボタンを押すごとに表示が切り換わります。
		●自動運転中（スマート床暖房運転）※ ・現在時刻表示　・設定温度表示　・室内温度表示 ・「自動」表示　・火力をグラフで表示 ・「スマート床暖」表示	
		●手動（固定火力）運転中（ストーブ単独運転） ・現在時刻表示　・室内温度表示　・火力をグラフで表示	
		●手動（固定火力）運転中（スマート床暖房運転）※ ・現在時刻表示　・室内温度表示　・火力をグラフで表示 ・「スマート床暖」表示	
現在時刻表示		●停止中 ・電源プラグをコンセントに差し込んだときの表示	
現在時刻合せ表示		・時刻表示部点滅 左図は午前 8 時 30 分にセットの例 5秒以上放置すると 1 に戻ります。	
タイマー1合せ表示		・"タイマー1"点滅 左図は午前 6 時 30 分にセットの例 5秒以上放置すると 1 に戻ります。	
タイマー2合せ表示		・"タイマー2"点滅 左図は午前 8 時 30 分にセットの例 5秒以上放置すると 1 に戻ります。	
ecoガイド表示		・「ecoガイド」ボタンを押したときの表示 左図は今日1日3リットル使用の例	
記号表示 (自己診断モニタ)		・対震自動消火装置(E3表示)作動の例 （再度、点火操作をしてください。） その他の自己診断モニタ表示については18～21 ページを参照してください。	



■エコサイン

●「エコサイン」で灯油1リットルあたりの運転時間がわかります。

エコサイン(火力)	エコ運転「切」	エコ運転「入」	
最大	1.3時間	1.5時間	各火力での1リットルあたりの運転時間
	1.5時間	1.7時間	
	1.7時間	2.0時間	
	2.0時間	2.5時間	
	2.5時間	3.3時間	
微少	3.3時間	4.5時間	

時間はめやすであり、実際の使用時間とは異なる場合があります。

■表示部の明るさ調節

●温度ボタン▲を押しながら▼を押すことにより、表示部の明るさを三段階に調節することができます。

■運転停止中およびタイマー運転中は表示が暗くなります。

●運転停止中も表示を明るいままにできます。

・温度ボタン▲を押しながら時刻設定ボタンを押してください。
1分以上経過しても表示が暗くならないことを確認してください。

・もとに戻したい場合は、再度温度ボタン▲を押しながら時刻設定ボタンを押してください。

操作部の名称と働き

操作部

注)※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

自動/手動ボタン　10ページ
・ルームサーモによる自動運転と手動による固定火力運転を切り換えるときに押します。
操作音　手動：ピッ
　　自動：ピピッ

タイマー１ボタン　タイマー２ボタン　15ページ
・タイマー運転のセット・解除をするときに押します。
操作音　セット：ピッ
　　解　除：ピピッ

チャイルドロックボタン　14ページ
・お子様などのいたずら操作防止や、誤って運転スイッチを押しても点火しないようにしたいとき使用します。
　３秒以上押すとセットまたは解除できます。
操作音　セット：ピッ
　　解　除：ピピッ

ecoボタン　11ページ
・eco(エコ)運転のセット・解除をするときに押します。
操作音　セット：ピッ
　　解　除：ピピッ

時刻設定ボタン　14・15ページ
・現在時刻合わせ、およびタイマー合わせの設定を切り換えるときに押します。
・押すごとに表示が切り換わります。

1 時刻設定ボタンを押す前の表示
運転時：温度表示・時刻表示
停止時：時刻表示
→ 2 現在時刻合わせ
→ 3 タイマー１合わせ
→ 4 タイマー２合わせ

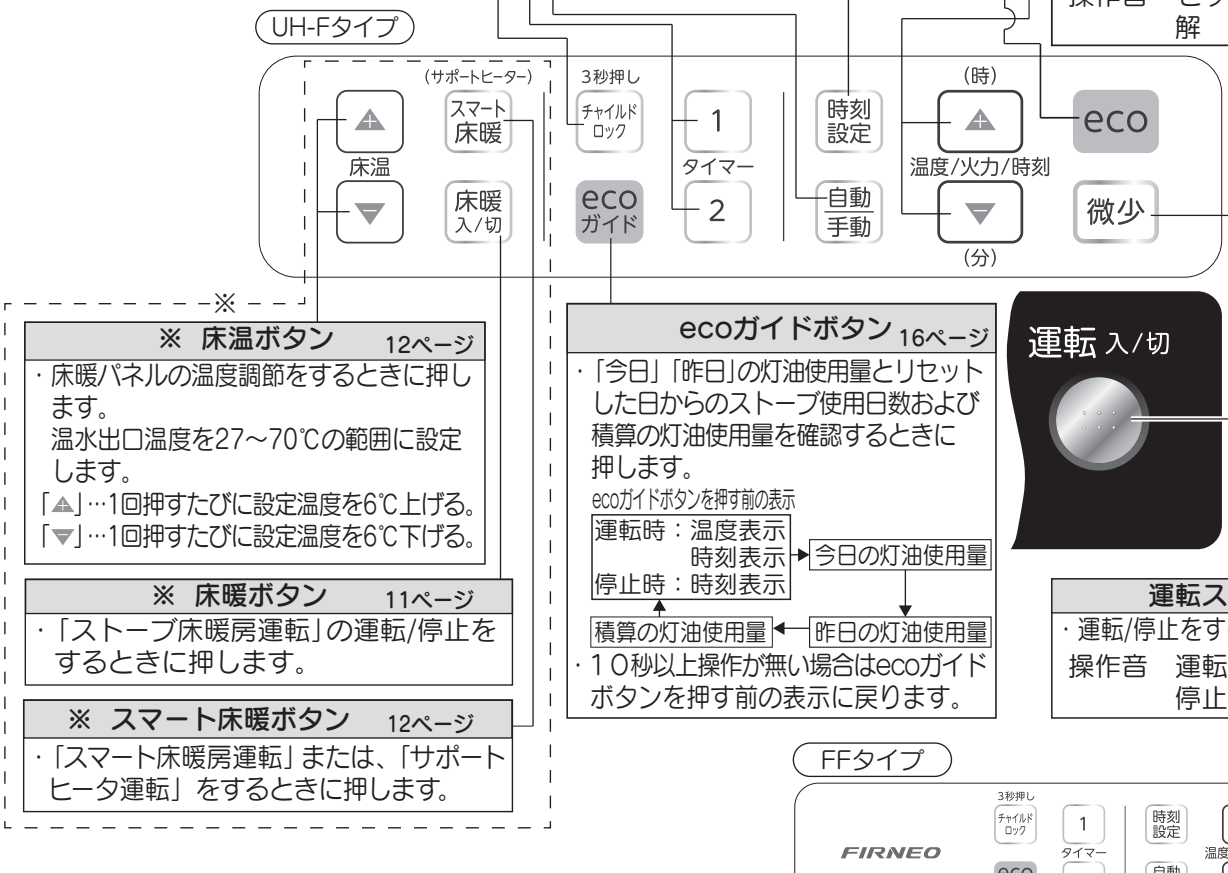
・５秒以上操作が無い場合は時刻設定ボタンを押す前の表示に戻ります。
操作音　切換：ピッ
　　戻る：ピピッ

温度ボタン　10ページ
・自動運転のとき設定温度を変えるときに押します。
操作音　▲：ピッ
　　▼：プッ

火力ボタン　10ページ
・手動運転のとき火力を変えるときに押します。
操作音　▲：ピッ
　　▼：プッ

時刻ボタン　14・15ページ
・現在時刻、タイマー時刻を合わせるときに押します。
操作音　▲（時）：ピッ
　　▼（分）：プッ

微少ボタン　13ページ
・クイック微少運転のセット・解除をするときに押します。
操作音　セット：ピッ
　　解　除：ピピッ



※　床温ボタン　12ページ
・床暖パネルの温度調節をするときに押します。
　温水出口温度を27～70℃の範囲に設定します。
「▲」…1回押すたびに設定温度を6℃上げる。
「▼」…1回押すたびに設定温度を6℃下げる。

※　床暖ボタン　11ページ
・「ストーブ床暖房運転」の運転/停止をするときに押します。

※　スマート床暖ボタン　12ページ
・「スマート床暖房運転」または、「サポートヒータ運転」をするときに押します。

ecoガイドボタン　16ページ
・「今日」「昨日」の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量を確認するときに押します。

ecoガイドボタンを押す前の表示
運転時：温度表示　時刻表示
停止時：時刻表示
→ 今日の灯油使用量
→ 昨日の灯油使用量
→ 積算の灯油使用量

・１０秒以上操作が無い場合はecoガイドボタンを押す前の表示に戻ります。

運転スイッチ　9ページ
・運転/停止をするときに押します。
操作音　運転：ピッ
　　停止：ピー

FFタイプ



■「音声お知らせ」の音量調整と消音方法

● 通常の運転操作（「点火」・「消火」・「タイマーセット」など）を行うとき、音声（“点火します”・“消火します”・“タイマーをセットしました”など）で操作状態をお知らせします。
●eco ボタンを押しながら温度ボタン▼を押すことにより、「音声お知らせ」の音量を２段階に調節することができます。
●eco ボタンを押しながら温度ボタン▲を押すことにより、「音声お知らせ」を消音することができます。
もとに戻したい場合は、再度 eco ボタンを押しながら温度ボタン▲を押してください。

お願い

●はじめてお使いになる前に
輸送時の傷を防止するために、操作部の表面には保護フィルムが貼ってあります。ご使用前に取り除いてください。コーナー部分にセロハンテープを貼り付けて、一緒にはがすとより簡単に取り除けます。
（保護フィルムは、ストーブの設置工事の際にはがしてある場合があります）

4 使用前の準備

燃　料

燃料は必ず灯油（JIS１号灯油）を使用してください。

⚠警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

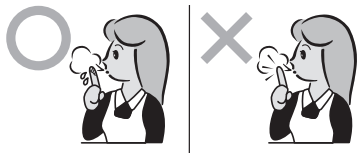
⚠注意 不良灯油（変質灯油、不純灯油）は、絶対に使用しないでください。点火・消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。

⚠注意 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
（火の気のない所で行ってください。）



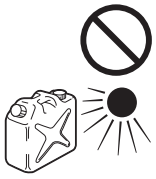
灯油は ぬれたまま　／　ガソリンは すぐ乾く

不良灯油（変質灯油・不純灯油）とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油



日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

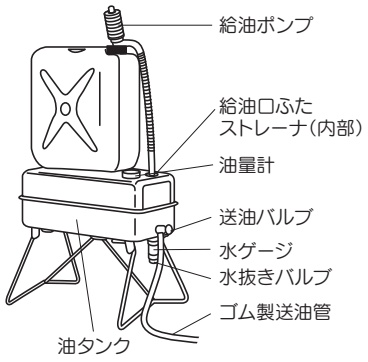
- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れこみ、油漏れや燃焼不良・着火不良の原因になります。

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

ご注意
- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買いあげの販売店にご相談ください。

給　油



■給油の際の手順と注意

⚠注意 **火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。**

- 送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。
  油量計の針が**「満」**をさしたら給油をやめてください。
  給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。（油タンクによりストレーナはない場合があります。）
- ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。

- 給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。
  水・ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に閉めてください。

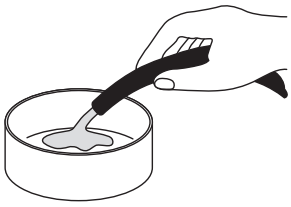
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないよう注意してください。

- ご使用中、油タンク内の灯油がなくなると、デジタル表示部に EL が表示され消火します。
  また、消火する時に、電磁ポンプの振動音がすることがありますが、異常ではありません。
- 油タンクを空にすると、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。
  このような場合は次の手順で空気抜きをしてください。

空気抜き手順は次ページへ続きます



1.送油バルブを閉じて、油タンクに給油します。
2.ストーブのゴム管口からゴム製送油管を外します。
3.送油バルブを開け、ゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。
(灯油がこぼれないように容器を用意してください。)
4. EL が表示された場合は、油タンクに給油して、ストーブの置台に灯油が漏れていないことを確認してから運転スイッチを押して「切」にしてください。もう一度運転スイッチを押して EL を解除し、ストーブが点火することを確認してください。
再び EL を表示した場合は、上記の手順を再度繰り返し、ストーブが点火することを確認してください。
※運転スイッチを押しても EL が解除できなくなった場合は、電源プラグをコンセントから抜いてから、再度差し込むと EL が解除されます。

●油タンクは、空にしないように、早めに給油してください。
●初めて運転するときも、同じ手順で送油経路内を油で満たしてから行ってください。
●**空気抜き後の再点火時に電磁ポンプの振動音がする場合がありますが、異常ではありません。**

運転開始前の準備と確認

■送油経路の油漏れの確認

⚠注意 **油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。**

●油漏れのあるときは使用を中止し、屋内用コック（油タンクの送油バルブ）を閉じてからお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

■電気配線の確認

⚠注意 **電源プラグをコンセントに根元まで確実に差し込んでください。**

●電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 **電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために･･･**

●電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
●電源コードは、途中で接続したり延長コードを使用しないでください。
●他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

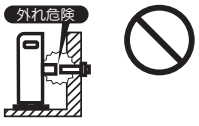
■ストーブ周囲の確認

⚠警告 **カーテン・布団や毛布など燃えやすいものを近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。**



■給排気筒の接続部の確認

⚠警告 **給排気筒（管・ホース）が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。**



■循環液の水位確認 (UH-Fタイプ)



● ストーブの左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位と下限水位の間）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。
循環液が入っている場合は黄色になります。
循環液は上限より多く入れないよう注意してください。入れすぎると使用中に循環液があふれることがあります。水位が下限以下の場合は専用補充液を入れてください。

■温水配管からの漏れ確認 (UH-Fタイプ)

●ストーブ内部や温水配管接合部から循環液の漏れがないか確認してください。
●床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

5 使用方法（使い方）

点火（運転開始）・消火（運転停止）

点　火



運転スイッチを押して「入」にしてください。

- " 点火します " の音声と同時に「運転中」表示が点滅します。
- 予熱が完了すると点火し、その後「運転中」表示が点灯に変わり温風が出ます。

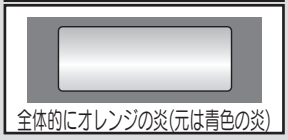
- 着火時、放電音と同時に着火音を発することがありますが、異常ではありません。
- 点火操作から着火まで約2分です。（室温によっては点火までの時間が変わることがあります。）
- 着火後しばらくしてから温風が出始めます。
- 1回で着火しない（放電音が繰り返し鳴る）ことがありますが、異常ではありません。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

■炎の状態

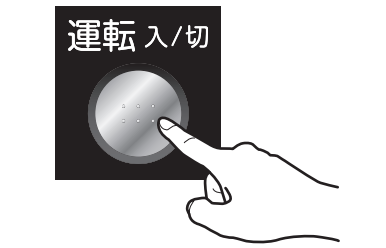
ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で炎は多少変化します。

- 青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）が混じっても異常ではありません。
  - ・ホコリを吸気したためです。
  - ・屋外の風が強いためです。
  - ・海岸に近いためです。
- 細かい（霧状の）水滴を吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。


青い炎の中に黄色い炎が混じる


全体的にオレンジの炎(元は青色の炎)

消　火





運転スイッチを押して「切」にしてください。

- " 消火します " の音声と同時に時刻表示以外のすべての表示が消灯し、消火します。
- 消火後は本体内部が冷えるまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機・対流用送風機が停止します。
- ストーブ床暖房運転中に運転スイッチを「切」にした場合は、ストーブの運転と床暖房運転の両方が停止します。

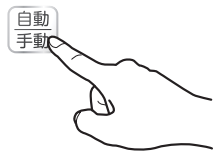
⚠注意　長期間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 外出のときは、必ず消火（運転停止）してください。
- 運転中は電源プラグを抜いて消火させないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 消火後は本体内部が冷えるまで送風を継続します。送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

室温の調節

■「自動運転」の場合

ルームサーモにより、設定温度に応じて自動的に火力調節を行います。設定温度は１０℃～３０℃の間で設定できます。次のように設定してください。



自動/手動ボタンを押して「自動」表示にします。

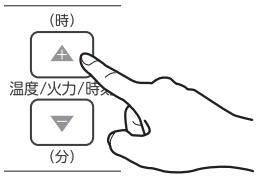
●" 自動に変更しました " の音声と同時に表示部の設定温度と自動が点灯します。

室温の調節 を行ってください。



●温度ボタン ＋ を押すと1℃上がります。(上限30℃)
●温度ボタン － を押すと1℃下がります。(下限10℃)

設定温度を変更すると " ○○℃に変更しました " と音声でお知らせします。



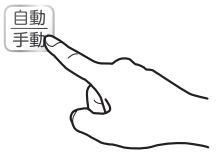
ご注意

●ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも表示部の室内温度と室温が一致しない場合があります。このような場合は、ストーブの上やストーブの熱の受けやすい場所、または直射日光や冷気の当たる場所を避け、できるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。

●比較的暖かい時期など、設定温度より室温が上がりすぎるときにはeco(エコ)運転をご使用ください。ecoセーブ運転によって、消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。 （11ページeco(エコ)運転の項参照）

■「手動運転」の場合

固定火力運転による火力調節が可能です。火力は6段階の調節ができます。
次のようにご希望の火力に調節してください。



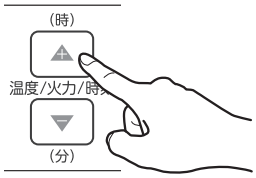
自動/手動ボタンを押して「自動」表示を消灯します。

●" 手動に変更しました " の音声と同時に表示部の設定温度と自動が消灯します。

火力の調節 を行ってください。



●火力ボタン ＋ を押すと1火力上がります。(上限6)
●火力ボタン － を押すと1火力下がります。(下限1)



※「自動運転」⇔「手動運転」を切り換えた場合、変更前の火力を継続し、設定温度が変更される場合があります。

eco（エコ）運転

eco(エコ)運転は火力を約１０%おさえて運転します。
室温が設定温度より上昇する場合（気温の高いとき、日あたりの良い部屋）は、自動運転のeco(エコ)運転にするとecoセーブ運転でムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な温度を保ちます。

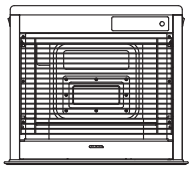
自動運転時

［設定温度２０℃の場合］

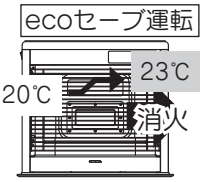


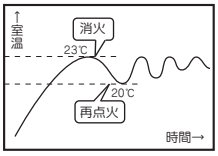
ecoボタンを押すと設定温度が２０℃に切り換わります。
※設定温度の初期設定は２０℃です。
設定温度は、温度ボタンで１０～３０℃に変更できます。

●eco(エコ)運転



室温が設定温度より約3℃上昇した場合
（セーブ消火）





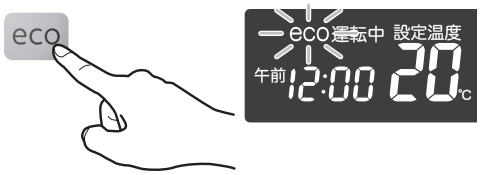
火力を約１０%おさえて暖房します。
- 室温が２０℃以上の場合、最大火力をさらに約１０～２０%おさえて運転します。

自動的に消火し、室温が設定温度まで下がると再点火することでムダな暖めすぎを抑え、快適な室温を保ちます。

手動運転時

●火力を約１０%おさえて運転し、室温が２４℃以上の場合最大火力をさらに約１０%おさえて運転します。

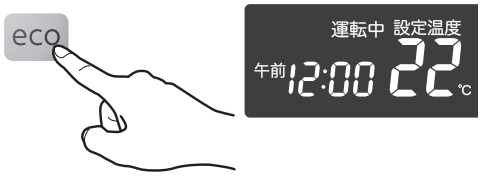
■eco(エコ) 運転のセット



ecoボタンを押してください

●"eco(エコ)運転をセットしました"の音声と同時に「eco」表示が点灯し、eco(エコ)運転に入ります。

■eco(エコ) 運転の解除



再度、ecoボタンを押してください

●"eco(エコ)運転を解除しました"の音声と同時に「eco」表示が消灯し、eco(エコ)運転を解除します。
●eco(エコ)運転を解除するとeco(エコ)運転前の設定にもどります。

ストーブ床暖房運転とストーブ運転の切換えのしかた (UH-Fタイプ)

■ストーブ床暖房運転とストーブ単独運転の切換えのしかた

● ストーブ床暖房運転を行う場合は運転スイッチを「入」にし、床暖ボタンを押してストーブ床暖房運転に切換えて運転してください。表示部の床暖表示が点灯します。
ストーブ単独運転を行う場合は再度、床暖ボタンを押してください。

ストーブ床暖房で運転する場合

・表示部の「床暖」表示が点灯



ストーブ単独で運転する場合

・表示部の「床暖」表示が消灯



※ストーブ床暖房運転中はシスターンタンクから循環液の流れる音が聞こえる場合がありますが異常ではありません。

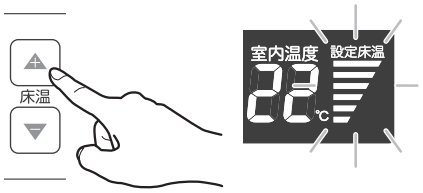
■運転中に床暖ボタンを操作した場合

むやみに、ストーブ単独↔ストーブ床暖に切りかえないでください。循環液のつまりの原因になります。

● ストーブ単独運転→ストーブ床暖房運転 …「ジュー」という循環液の蒸発音がすることがありますが異常ではありません。
● ストーブ床暖房運転→ストーブ単独運転 …ストーブ床暖房運転を停止し、約10分後ストーブ単独運転を開始します。

床暖パネルの温度調節 (UH-Fタイプ)

ストーブ床暖房運転の場合、循環液が設定温度になるように温度調節します。設定床温は6段階にグラフ表示します。



床暖パネルの温度は次の手順で調節してください。

●ストーブ床暖房運転中に床温ボタン ▲ ▼ を押してください。
「設定床温」表示とグラフ表示(エコサイン)が点滅します。
- ▲ …1回押すと設定床温を6℃上げ、グラフ表示が上に移動。
- ▼ …1回押すと設定床温を6℃下げ、グラフ表示が下に移動。

(床暖パネルの温度調節は「設定床温」が点滅中に設定できます。
点滅が終了した場合は、再度床温ボタンを押して設定してください。)

●設定床温を変更すると"床暖の温度を変更しました"と音声でお知らせします。

●設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は温度ボタンで行ってください。
カーペットの表面が熱くなりすぎないように、設定床温は十分注意してください。

<ストーブ床暖房運転時の手動火力調節について>

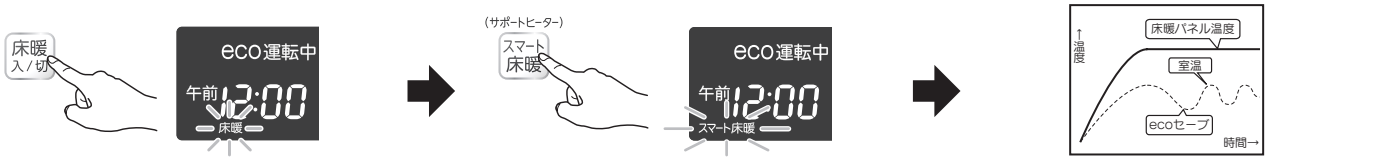
●本ストーブの床暖房能力は使用火力によって変化します。パネル敷畳数が多い場合火力調節が低いと床暖パネルが温まらないことがあります。お使いのパネル敷畳数をご確認の上、下記の表をめやすに火力の調節をしてご使用ください。

畳　数	3	4 ～ 6 ～ 9
火　力	▬	▬ ～ ≡ ～ ≡

スマート床暖房運転 (UH-Fタイプ)

ストーブの排気の熱とサポートヒータ(電気ヒータ)で循環液が設定温度になるように温度調節します。
お部屋を暖めすぎないように快適に床暖房運転ができます。

■スマート床暖房運転方法



運転スイッチを「入」にしてから床暖ボタンを押してください。
●表示部に「床暖」表示が点灯し、ストーブ床暖房運転になります。

ストーブ床暖房運転中にスマート床暖ボタンを押してください。
●表示部に「スマート床暖」表示が点灯し、スマート床暖房運転になります。

●ストーブの排気の熱とサポートヒータで床暖房運転をします。
●eco運転と併用することでecoセーブ中(ストーブ消火中)もサポートヒータで床暖パネルを快適な温度に保ちます。

■スマート床暖房運転の解除



再度、スマート床暖ボタンを押してください。
●表示部の「スマート」表示が消灯します。

●ストーブ単独運転を行う場合は、床暖ボタンを押してください。(11ページ参照)
●ストーブ単独運転中はスマート床暖ボタンは受け付けません。(11ページ参照)

サポートヒータ運転 (UH-Fタイプ)

春先や秋口などの足元が少し寒く感じる時にサポートヒータ運転のみで快適な床暖房運転ができます。

■サポートヒータの運転と停止方法



運転停止中にスマート床暖ボタンを押してください。

●表示部の「スマート床暖」表示と「設定床温」表示が点灯し、サポートヒータ運転に入ります。



サポートヒータ運転を停止する場合は、再度スマート床暖ボタンを押してください。

●表示部の「スマート床暖」表示と「設定床温」表示が消灯し、サポートヒータ運転を停止します。

●サポートヒータ運転の消し忘れを防止するため、操作後8時間で自動停止します。

クイック微少運転

●運転中に微少ボタンを押すと、ワンタッチで最小火力になり、部屋の暖めすぎを防止します。

■クイック微少運転方法





微少ボタンを押してください

●"微少をセットしました"の音声と同時に表示部の「微少」表示が点灯し、クイック微少運転に入ります。

■クイック微少運転の解除方法



再度、微少ボタンを押してください

●" 微少を解除しました " の音声と同時に表示部の「微少」表示が消灯し、クイック微少運転を解除します。

●クイック微少運転を解除するとクイック微少運転前の設定に戻ります。

チャイルドロック

お子様などによるいたずら操作の防止や、誤って運転スイッチを押しても点火しないようにしたいときに使用します。

■チャイルドロックのセット



チャイルドロックボタンを3秒以上押してください。

●デジタル表示部の チャイルドロック が点灯するとセット完了です。

●停止中または運転中にチャイルドロックのセットができます。
●運転中にチャイルドロックをセットすると運転停止（消火）操作以外は受け付けません。（ チャイルドロック の点滅でお知らせします。）

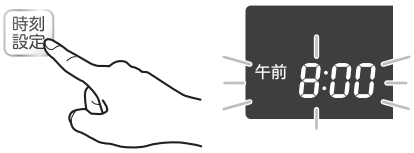
■チャイルドロックの解除



再度、チャイルドロックボタンを3秒以上押してください。

●デジタル表示部の チャイルドロック が消灯し、解除されます。

現在時刻の合わせ方



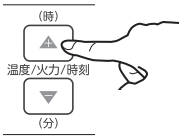
現在時刻は工場出荷時に合わせてありますが、多少ずれることがあります。
時刻がずれている時は、次の手順で合わせてください。

● 時刻設定ボタンを押すと現在の設定時刻が点滅します。
● 時刻ボタン ▲（時） ▼（分）を押して現在時刻を合わせます。
　１回押すと ▲（時）は１時間、▼（分）は１分進みます。
　ボタンを押し続けると表示は連続して変わります。

（時刻設定は時刻表示部が点滅中に設定できます。
５秒間操作がない時、デジタル表示は自動的に時刻設定ボタンを押す前の表示に戻ります。）

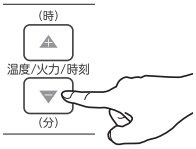
例：午前６時１５分に合わせる場合

● ▲（時）ボタンを押して“午前６：００”にします。





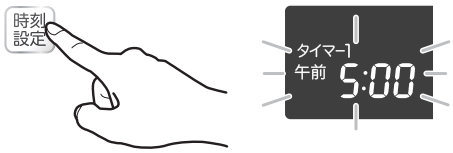
● ▼（分）ボタンを押して“午前６：１５”にします。





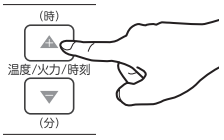
タイマーの使用方法

■タイマー時刻の合わせ方



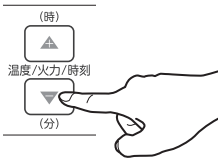
●タイマー運転は２コースセットできます。
●時刻設定ボタンを２回押して「タイマー１」表示にします。
（タイマー運転２の場合は時刻設定ボタンを３回押して「タイマー２」の表示にしてください。）
● 未セットの場合、初期表示は
タイマー１：午前５時、タイマー２：午前７時　となります。
●時刻ボタン ▲（時） ▼（分）を押してタイマーセット時刻を合わせます。
１回押すと ▲（時）は1時間、▼（分）は５分進みます。
ボタンを押し続けると表示は連続して変わります。
（タイマー時刻設定は「タイマー」が点滅中設定できます。
５秒間操作がない時、デジタル表示は自動的に時刻設定ボタンを押す前の表示に戻ります。）

例：午前６時３０分に合わせる場合
● ▲（時）ボタンを押して“午前６：００”にします。



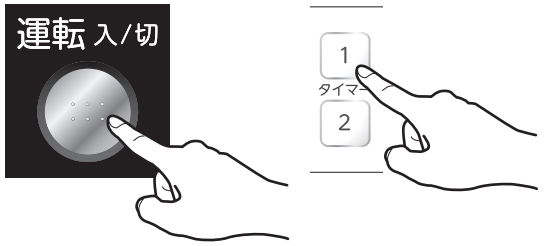


● ▼（分）ボタンを押して“午前６：３０”にします。





■タイマー運転方法

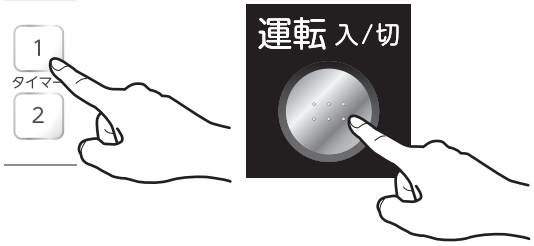




●運転スイッチを押して「入」にしてください。
（運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。）
●運転するときのご希望の温度設定または、火力設定に合わせてください。
●タイマー１ボタンを押してください。
（タイマー運転２の場合はタイマー２ボタンを押してください。）
● “タイマーをセットしました”の音声と同時にタイマー表示とタイマーセット時刻が表示され、タイマー運転に入ります。
運転中の場合は消火動作に入ります。
●タイマーセット時刻になると、運転を開始します。

●タイマー運転１とタイマー運転２は同時セットできません。
●外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
●タイマー運転中は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●タイマー運転中はタイマーセット時刻表示の明るさ（輝度）が落ちます。
●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
●タイマー運転設定後に停電があった場合や、対震自動消火装置が作動した時は、タイマー運転が解除され、点火しません。

■タイマー運転の解除

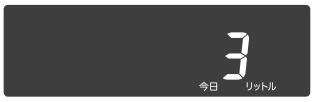


●再度、タイマー１ボタンを押してください。
（タイマー運転２の場合はタイマー２ボタンを押してください。）
● " タイマーを解除しました " の音声と同時にタイマー１表示が消灯し、時刻表示部に現在時刻が表示され（時計動作コロン点滅）自動的に運転を開始します。
（タイマー運転２の場合はタイマー２表示が消灯します。）
●運転を停止する場合は、運転スイッチを「切」にしてください。

eco（エコ）ガイド

「今日」「昨日」の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量を表示します。
ecoガイドボタンを押すと表示部がecoガイドの表示に切り換わり、ボタンを押すごとに表示部が次のように切り換わります。

●今日の灯油使用量



[例]今日１日　灯油３リットル使用
今日の現在までの灯油使用量を表示します。
（午前０時から現在までの灯油使用量を表示します。）

●昨日の灯油使用量



[例]昨日１日　灯油５リットル使用
昨日１日の灯油使用量を表示します。
（午前０時から２４時間の灯油使用量を表示します。）

●積算の灯油使用量



[例]１２５日使用時　灯油３１９リットル使用
ストーブの使用日数と積算の灯油使用量を表示します。
（ストーブの使用日数は午前０時に更新します。）

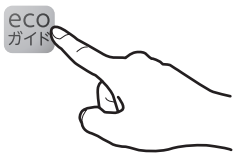
●灯油使用量は１リットル単位で表示します。
※灯油使用量は小数点以下を四捨五入した数値を表示します。

ご注意

●現在時刻が合っていない場合、灯油使用量や使用日数が正しい値を表示しません。
「現在時刻の合わせ方」（１４ページ）を参照し、時刻合わせを行ってください。
●電源プラグをコンセントから抜いたり、停電があった場合、今日の灯油使用量は「０」にリセットされます。
ただし昨日の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量は記憶します。
●午前0時の時点で電源プラグを抜いていた場合、使用日数は加算されません。
●表示する灯油使用量はめやすです。使用状況によって実際の灯油使用量と異なる場合があります。

■eco（エコ）ガイドの表示方法

ecoガイドボタンを押すごとに表示が切り換わります。



今日の灯油使用量を確認する場合

●ecoガイドボタンを押してください。（１回）
●“今日の使用量です”の音声と同時に今日の灯油使用量を表示します。

昨日の灯油使用量を確認する場合

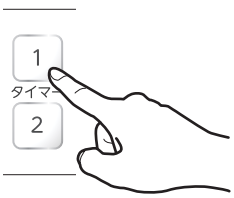
●ecoガイドボタンを押してください。（２回）
●“昨日の使用量です”の音声と同時に昨日の灯油使用量を表示します。

積算の灯油使用量を確認する場合

●ecoガイドボタンを押してください。（３回）
●“積算の使用量です”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量を表示します。

●eco（エコ）ガイド表示中に１０秒間操作がない場合、通常表示に戻ります。
●eco（エコ）ガイド表示中にタイマー運転は使用できません。
●ストーブ使用日数の上限は「1999」日です。それ以上は使用日数が増えません。
必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。
●積算の灯油使用量の上限は「3999」Lです。それ以上は使用量が積算されません。
必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。

■積算の灯油使用量のリセット方法



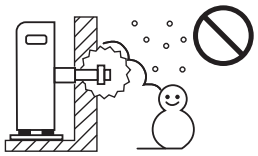
●積算の灯油使用量を表示している状態で「タイマー１ボタン」を３秒以上押してください。
・“積算をリセットしました”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量をリセットし表示が「０」になります。



使用上の注意

⚠警告 **●給排気筒トップ閉そく危険**

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。
ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

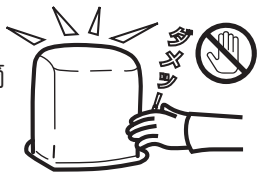


⚠警告 **●低温やけどに注意** (UH-Fタイプ)

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低い温度（４０～６０℃）でも低温やけどや脱水症状の原因となります。

⚠注意 **●高温部接触禁止**

燃焼中や消火直後は、高温部（前パネル・枠側面・前面ガードなど）給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。
小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。



⚠注意 **●長期間使用しないときは電源プラグを抜く**

長期間使用しないときまたは保管するときは､必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

ストーブ周囲の注意

●ストーブ下面に毛足の長いじゅうたんや熱に弱いものを敷かないでください。
●ストーブ前面付近には熱に弱いものを置かないでください。
●加湿器を使用している部屋など湿気やほこりの多い場所で使用すると表示部などがくもる場合があります。また、ストーブ内部で結露したり水のミネラルが付着したりすると故障する場合があります。

前面ガードを外したまま運転しない

●前面ガードを外したまま使用しないでください。誤って化粧板や外筒、ガラスなどの高温部に触れるとやけどをします。

平面ガラスには水をかけない

●ガラスには水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。

雷発生時は電源プラグを抜く

●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電流が流れても、過電流防止装置がストーブを保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷する恐れがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

床暖房の床温調節 (UH-Fタイプ)

●設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は温度ボタンで行ってください。
カーペットの表面が熱くなりすぎないよう設定床温には十分注意してください。

循環液の凍結予防（循環液の注入） (UH-Fタイプ)

●腐食予防および凍結予防のために循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。
他の不凍液を使用したり混合したりすると製品の寿命が短くなります。
●循環液は３年をめやすに入れかえてください。（開封した循環液も含む）

自己診断モニタについて

故障・異常が発生すると状態が室内温度表示に記号表示（自己診断モニタ）されます。
この場合は「故障・異常の見分け方と処置方法」(25～26ページ)をご覧になり、記号に合った必要な処置をしてください。

〈自己診断モニタ〉

注）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

表示	原因	処置方法
E1	途中消火	①
E2	不着火	
E3	対震作動	
E4	過熱防止装置作動	
E5	排気管抜け検知作動	
E6	ルームサーモ断線	
E7	停電	
E8	疑似火炎	
EA	燃焼用送風機異常検出	
EC	ルームサーモ短絡	①
Ed	対流用送風機異常検出	
EH	表示サーミスタ温度異常	
P1	ポット予熱不足	②
P2	ポット温度低下	
P3	ポット異常過熱	
EL	油切れ検知装置作動	③
EU	油面異常検知装置作動	④
F0 ※	熱交サーミスタ断線	①
F1 ※	熱交サーミスタ温度異常（床暖房運転）	
F2 ※	湯温サーミスタ断線	
F3 ※	熱交サーミスタ温度異常（ストーブ運転）	
FC ※	湯温サーミスタ短絡	
HC点滅	不完全燃焼防止装置作動	⑤
HH点滅	連続不完全燃焼通知機能作動	
HH点灯	再点火防止機能作動	⑥

表示	表示理由・処置方法
88	点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が作動しました。 下記の「■ 88 表示　点検時期お知らせ機能について」を参照してください。 点検（有料）をおすすめします。

■処置方法

①運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
②お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
③油タンクに給油して、ストーブの置台に灯油が漏れていないことを確認してから運転スイッチを押して「切」にしてください。もう一度運転スイッチを押してELを解除し、ストーブが点火することを確認してください。
再びELを表示した場合は、上記の手順を再度繰り返し、ストーブが点火することを確認してください。
④屋内用コック（油タンクの送油バルブ）を閉じてから、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。また、ブザー音が10分ごとに鳴りますので、音を消したい場合は、運転スイッチを1回押してください。
⑤直ちに部屋の換気を十分にして、運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
⑥直ちに部屋の換気を十分にしてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

お願い

●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

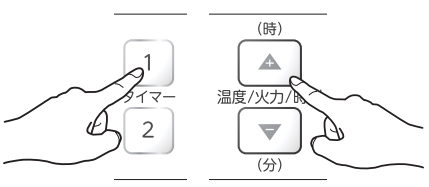
■ 88 表示　点検時期お知らせ機能について

●本製品には点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が搭載されています
●ストーブの使用時間が設計上の標準使用期間8年相当（20,000時間）になったら、表示部に88を表示して点検時期をお知らせします。
●経年劣化による重大事故を防止するために、あんしん点検（有料）をおすすめします。
●故障ではありませんのでご使用できます。
●弊社 お客様ご相談窓口：コロナサービスセンターに連絡してください。
点検のご案内をさせていただきます。（受付時間：365日24時間受付）
TEL　　：フリーダイヤル　0120-919-302
携帯電話：ナビダイヤル　　0570-550-992（ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります）

ご注意

●使用状況によっては点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）による点検時期お知らせ表示が設計上の標準使用期間8年より早く表示することがあります。
●点検後は使用時間が3年相当（7,500時間）の使用期間ごとに88を表示して、点検時期をお知らせします。
安全に製品を使用していただくため、88を表示した場合は、あんしん点検（有料）を受けることをおすすめします。

●点検を受けていただくまでの間、表示部の88を表示しないようにできます。
弊社 お客様ご相談窓口に連絡してから次のように操作してください。



1.運転スイッチを押して「入」にしてください。
●約3分ごとに88表示が10秒間点滅します。
2.温度ボタンの▲を押しながらタイマー1ボタンを5秒間押し続けてください。
●表示部が88から--に切り換わり、点検時期お知らせ表示88を表示しなくなります。

●点検を受けずにご使用になった場合、上記操作後1年相当（2,500時間）になると再度88を表示します。

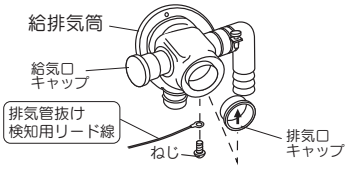
6 安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検、処置を行ってください。すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。また、すべての処置は必ず、ストーブが消火し本体温度が十分下がってから行ってください。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
燃焼制御装置 ・ **点火安全装置** ●フレームロッド [E1表示（途中消火）・E2表示（不着火）]	●途中消火をしたとき ●点火ミスをしたとき ⇩ ・自己診断モニタ E1 表示または E2 表示 ・ストーブの運転を停止	●油タンクの送油バルブが閉じていないか確認してください。 ●ゴム製送油管につぶれや空気だまりがないか確認してください。 ●給排気筒トップが閉そくしていないか確認してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
対震自動消火装置 （E3 表示）	●強い地震（震度約5以上）や衝撃を受けたとき ⇩ ・自己診断モニタ E3 表示 ・ストーブの運転を停止	●ストーブの周囲や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をしてください。
過熱防止装置 ●過熱防止サーモスタット（右） ※●過熱防止サーモスタット（左） ●サーモスタット （E4 表示）	●フィルタや対流ファンガードがほこりなどでふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ●外筒が異常に熱くなったとき ⇩ ・自己診断モニタ E4 表示 ・ストーブの運転を停止 ・異常温度検知装置（表示サーミスタ）の温度が高い状態で過熱防止装置が作動した場合、EH を表示します。	●フィルタや対流ファンガードの掃除をしてください。（22ページ参照） ●ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
停電安全装置 （E7 表示）	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ⇩ ・通電後自己診断モニタ E7 表示 ・ストーブの運転を停止	●通電後再点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。
不完全燃焼防止装置 （HC 点滅表示） **連続不完全燃焼通知機能** （HH 点滅表示） **再点火防止機能** （HH 点灯表示）	●排気が室内に漏れ不完全燃焼防止装置が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HC 点滅表示 ・ストーブの運転を停止 ●不完全燃焼防止装置が連続して4回作動し、「連続不完全燃焼通知機能」が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HH 点滅表示 ・自動的に消火 ●さらに不完全燃焼防止装置（不完全燃焼通知機能）が連続して3回作動し、再点火防止機能が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HH 点灯表示 ・自動的に消火 ・再点火できません。	●部屋の換気を十分にしてください。 ●排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。 ●給排気筒トップが閉そくしていないか確認してください。 ●部屋の換気を十分にして、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

注）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

7 その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
排気管抜け検知装置 （E5 表示）	●排気管の接続部が外れたとき ●排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線したとき ●ストッパーリングが正しく取り付けられていないとき ⇩ ・自己診断モニタ E5 表示 ・ストーブの運転を停止	●給排気筒および排気管の接続部に、外れ・ゆるみがないか確認してください。 ●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、外れ・切れがないか確認してください。  ●ストッパーリングが正しく取り付けられているか確認してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
燃焼用送風機異常検出装置 （EA 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ EA 表示 ・ストーブの運転を停止	●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
対流用送風機異常検出装置 （Ed 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ Ed 表示 ・ストーブの運転を停止	●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
異常温度検知装置 ●表示サーミスタ （EH 表示）	●フィルタや対流ファンガードがほこりなどでふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・自己診断モニタ EH 表示 ・ストーブの運転を停止	●フィルタや対流ファンガードの掃除をしてください。（22ページ参照） ●ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
※ 循環水過昇防止装置 ●熱交サーミスタ （F1 表示）	●循環液が減少したとき ●循環液が循環しないとき ⇩ ・自己診断モニタ F1 表示 ・ストーブの運転を停止	●床暖房専用補充液を補給するなど、循環液過昇原因を取り除いてください。 床暖房専用補充液を補給する場合は、23ページを参照してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
過電流防止装置 （表示部全消灯）	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき ⇩ ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止	●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
※ サポートヒータ過熱防止装置	●循環液が極端に減少したとき ●循環液が循環しないとき ⇩ ・サポートヒータへの通電を停止 （温度が下がると自動的に通電を再開）	●運転を一旦停止して、日常の点検・手入れ（23ページ）をしてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

注）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

装　置　の　名　称	原因・作動結果	処　置　方　法
油切れ検知装置 ●フロートスイッチ （ EL 表示）	●油タンクの灯油がなくなったとき ●油タンクの送油バルブが閉じているとき ⇩ ・自己診断モニタ EL 表示 ・ストーブの運転を停止	●油タンクに給油してください。 ●油タンクの送油バルブを開けてください。
油面異常検知装置 ●フロートスイッチ （ EU 表示）	●レベラタンク内の油面が異常に上昇したとき ⇩ ・自己診断モニタ EU 表示 ・ストーブの運転を停止	●屋内用コック（油タンクの送油バルブ）を閉じてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。 ●ブザー音が 10 分ごとに鳴りますので、音を消したい場合は、運転スイッチを 1 回押してください。

8 日常の点検・手入れ

点検・手入れのときの注意

点検･手入れは消火後､ストーブが十分冷えてから必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠注意 **●故障･破損したら､使用しないでください｡不完全な修理は危険です。**
●定期的（2年に1回程度）に点検･整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると､故障や事故の原因になり危険です。

点検・手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

⚠注意 **カーテン･布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。**
火災が発生するおそれがあります。

■ほこり（使用ごと）

●ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
●ストーブ外観のほこりや汚れは乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。
ベンジン･シンナーなど揮発性の物は使用しないでください｡塗装がはがれたり､樹脂が変形します。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台･油タンクに油漏れ･油のたまりや油のにじみがないか､点検してください。
また､給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。

●油漏れがある場合は､お買いあげの販売店または､お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換のめやす（シーズン初め）

⚠注意 **油タンクやゴム製送油管･接合部･給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。**

ご注意 **ゴム製送油管は､屋外で使用しないでください｡屋外での使用は禁止されています。**
ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください｡ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので､ひび割れや亀裂などがない場合でも3年に1度は新しいものに交換されることをおすすめします｡交換しないと灯油の漏れにつながり､火災のおそれがあります。

■油タンク（シーズン初め、適時）

●オイルフィルタに水やゴミがたまっていないかお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に点検を依頼してください。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（使用ごと）

⚠警告 給排気筒（管・ホース）が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

⚠警告 積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。

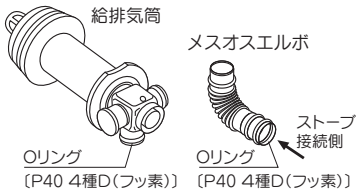
- 除雪は、給排気筒トップの周囲を常に30cm以上あけて、風がよどまないようにしてください。
- 積雪や屋根から落ちた雪やつららにより、給排気筒トップがふさがれると燃焼不良の原因になります。閉そくすると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

●給排気筒およびトップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検し、障害物が置いてある場合は、移動してください。障害物が置いてあると排ガスを給気しやすくなり、不完全燃焼や、運転が停止する原因になります。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップの周囲の点検（1シーズン1～2回）

●給排気筒がつまると、不完全燃焼をおこします。
シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

●給排気筒および排気管の接続部が外れたり、排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線していないか点検してください。



●給排気筒を再び取り付けるとき、排気管の接続内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。
破損していた場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に交換を依頼してください。

●掃除するときなどは給排気筒トップにホースなどで直接水をかけないでください。ストーブ内に水が入ると故障の原因になります。

■給気ホース・排気管の点検（シーズン初め、適時）

●給気ホース・排気管の接続部が外れていないか点検してください。

●給気ホースが排気管にあたっていないかを点検してください。

■結露水の処理（適時）

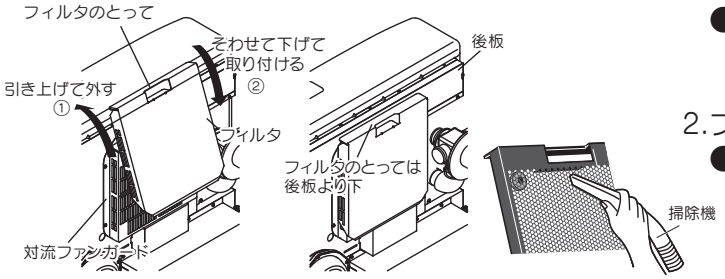
お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。

●給排気筒トップより結露水がたれることがありますが異常ではありません。

●排気管に結露水がたまった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に点検を依頼してください。

■対流用送風機のフィルタの掃除（週に1回以上）

●フィルタがごみやほこりで目づまりすると、送風力が弱くなり排気温度やストーブの表面温度が上昇する原因になります。〔過熱防止装置または表示サーミスタが作動し、運転が停止する場合があります。〕
運転が停止し、対流用送風機が止まっていることを確認してから次の手順でストーブ裏面のフィルタの掃除を行ってください。



1.フィルタを外してください。
●フィルタのとってを持って、引き上げて外します。
フィルタのほこりを掃除機やブラシなどできれいに掃除してください。

2.フィルタを取り付けてください。
●掃除が終わったらフィルタを対流ファンガードにそわせて下げて取り付けます。
フィルタのとってが後板より下になっていることを確認してください。（フィルタについている磁石で固定されます。）

⚠注意 **フィルタを外したまま運転しないでください。**

対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻き込んで火災になるおそれがあります。
また手などをふれるとけがをするおそれがあります。

■地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
・給排気筒まわりの外れ、漏れの確認　　・ストーブの損傷点検
・灯油配管からの漏れ確認

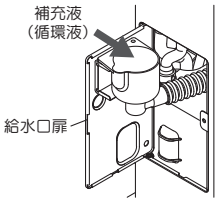
●点検で異常が見つかった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

■床暖房専用補充液の補給（適時）（UH-Fタイプ）

●シスターンタンク内の循環液は、少しずつ蒸発します。ときどき水位を確認して循環液が不足している場合は、給水口扉を開き規定水位の上限まで床暖房専用補充液を補給してください。
補給を行わないと循環液の不足により熱交サーミスタ温度異常（F1表示）で運転が停止します。

●循環液の不足により熱交サーミスタ温度異常（F1表示）が出た場合、温水配管内にエアーが入り、循環液が循環しないことがあります。下記の手順でエアー抜きを行ってください。
①ストーブが完全に停止してから床暖房専用補充液を規定水位の上限まで補給してください。
②床温ボタン ▲▼ を同時に5秒間押し続けてください。
・循環ポンプが運転を開始し、エアー抜きを行います。
約5分間循環ポンプを運転すると、エアー抜きが完了します。
③床暖ボタンを押してください。
・循環ポンプが停止します。

再運転の際、「ジュー」という循環液の蒸発音が発生することがありますが、異常ではありません。
また、再度熱交サーミスタ温度異常（F1表示）が出た場合はもう一度上記①～③の手順を行ってください。





ご注意 床暖房専用補充液は「上限」より多く補給しないでください。
使用中に循環液があふれることがあります。

● コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液です。循環液はすでに純水で適正な濃度に調合してありますので試運転時にはこのままストーブに入れてください。
● 他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりすると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに沸騰してしまうことがあります。
● 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので取り扱いには十分注意してください。
● 循環液は3年をめやすに入れかえてください。（開封した循環液も含む）
循環液の入れかえはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。
● 循環液の凍結温度は、−20℃に調合されています。

■温水配管の点検・交換のめやす（シーズン初め、適時）（UH-Fタイプ）

●ストーブ内部や温水配管接続部分から循環液の漏れがないことを確認してください。
●パックチューブは経年変化しますので手で少し曲げ、ひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換のめやすは3年に1度です。交換はお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。

9 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店にご相談ください。

愛情点検	長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ！	
	こんな症状はありませんか	●油漏れがする。 ●強い臭いがする。 ●運転中に異常な音がする。 ●その他の異常や故障がある。

▶

ご使用中止
故障や事故の防止のため必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

10 設計上の標準使用期間

■本製品の設計上の標準使用期間について

●本製品の設計上の標準使用期間は、8年と算定しています。
●点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）により、表示部に 88 を表示します。
●設計上の標準使用期間とは、標準的な使用条件のもとで適切な取り扱いで使用し、適切な維持管理が行われた場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間として、製品ごとに設定されるものです。
取扱説明書に記載の保証書による無償保証期間とは異なりますのでご注意ください。

〈設計上の標準使用期間の算定の根拠〉

本製品の設計上の標準使用期間は、JIS S2073 の「4.標準使用条件」に準じて、以下の使用条件を想定し、当社において耐久試験などを行った結果算出された数値などに基づき経年劣化により安全上支障が生ずるおそれが著しく少ないことを確認した時期を設計上の標準使用期間としています。

●家庭用密閉式石油暖房機標準使用条件
年間使用時間　2,500 時間、換気回数　1回／h、暖房設定温度　22 ℃

〈標準的な使用条件と異なる使用をした場合の注意点ついて〉

●製品の使用条件または使用頻度が、その根拠となった数値よりも高い場合
●製品が目的以外の用途で使用された場合
●標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合
●業務用で使用した場合
●その他経年劣化を特に進める条件で使用された場合

上記のような使用をした場合は、設計上の標準使用期間よりも短期間で製品が経年劣化し、安全上支障が生ずるおそれがあります。

■本製品のあんしん点検に関するお問い合わせは、下記へ連絡ください

●弊社 お客様ご相談窓口
コロナサービスセンター（受付時間：365 日24 時間受付）
TEL　：フリーダイヤル　0120-919-302
携帯電話 ：ナビダイヤル　0570-550-992　（ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります）

＜点検料金について＞

●点検料金はお客様にご負担いただくことになります。
また、点検の結果、整備が必要となった場合は、別途整備費用が発生いたします。

＜補修用性能部品について＞

●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後7年です。

■日常の点検・手入れ

●製品を安全にご利用いただくためには、お客様においても日常的に清掃や安全点検を行っていただくようお願いいたします。詳しくは本書の「日常の点検・手入れ（21～23ページ）」の項をご覧ください。
●定期的な点検（任意）を受けられることをおすすめします。
詳しくは本書の「定期点検（23ページ）」の項をご覧ください。

11 故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現象		説明
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズン初めに煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	1回で着火しない。(放電音が繰り返し鳴る)	点火を確実に行うための動作です。異常ではありません。
	燃焼開始時、火力調節時および消火時に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にポンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。
	ストーブ本体から水が蒸発する「ジュッ」という音がする。	結露水が熱交換器内部で蒸発するためです。異常ではありません。
	「ブーン」と音がする。	モータの運転音で異常ではありません。
	運転開始時、「カッチカッチ」という音がする。	製品の機能上(リレー音)であり異常ではありません。

■使用中に異常があったら、次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

※印の現象・原因は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

原因＼現象	E1(途中消火)	E2(点火しない)	E3(対震作動)	E4(過熱防止装置作動)	E5(排気管抜け検知作動)	E7(停電)	E8(疑似火炎)	EH(表示サーミスタ温度異常作動)	EL(油切れ検知装置作動)	F1(熱交サーミスタ温度異常)※	HC点滅(不完全燃焼防止装置作動)	HH点滅(連続不完全燃焼通知機能作動)	HH点灯(再点火防止機能作動)
電源プラグをコンセントに差し込んでいない													
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●										
油タンクに灯油がない。または、送油バルブが閉じている	●	●							●				
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●							●				
ゴム製送油管が折れていて、灯油が流れにくい	●	●							●				
レベラタンクに水、ごみが入っている。不良灯油を使用している	●	●											
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる													
対流用送風機のフィルタにほこりがたまった				●				●					
給排気筒の工事が不適当のため排気ガスを吸い込んでいる	●												
ルームサーモの取り付け位置が悪い。手動運転になっている													
給排気筒トップの先端がおおわれている	●										●	●	●
油漏れがある													
給排気筒接続部が外れている。 排気管抜け検知用リード線端子接続がゆるんでいる					●								
フレームロッドにすすが多量に付着した	●						●						
循環ポンプが故障している ※										●			
循環液が不足している ※										●			
温水配管がつぶれている。温水ジョイントのコックが閉じている ※										●			
停電があった						●							
電源電圧(AC100V)が低くなっている													
室内に排気ガスが漏れた											●	●	●
加湿器を使用している。湿気やほこりの多い場所で使用している													
バックアップ用電池の寿命													

現象		説明
燃焼時・その他	炎の一部が揺らぐ。青炎の中に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	タイマー運転中に表示部の表示が暗い。	異常ではありません。
	初めて使用する時や油切れの時に「コトコト」音がする。	電磁ポンプ（給油用）が空打ちする音です。異常ではありません。
	使用中にときどき「コトコト」音がする。	電磁ポンプ（送油用・給油用）の運転音で異常ではありません。
	前面ガードがすこし曲がる。	前面ガードの一部が熱により膨張するためです。
	外筒の中央部が「色あいが変わって見える」、「白っぽくなって見える」場合がある。	使用している特殊遠赤外線塗料は、部屋の明るさや照明等の光に反射して色あいが変化します。異常ではありません。
	外筒の上部が赤くなる。	炎に熱せられて赤熱するためです。異常ではありません。
	ガラスが白くなる。	灯油中の成分がガラスに付着するためです。異常ではありません。
	eco（エコ）運転中に消火する。 （「eco」表示が点灯している）	室温調節のため消火しました。 11ページの「eco（エコ）運転」を参照してください。
	表示部に 88 が表示される。 点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）作動	ストーブの点検時期になりました。18ページの「■ 88 表示 点検時期お知らせ機能について」を参照してください。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

現象	説明
置台に灯油が漏れている。	ゴム製送油管の締付バンドが締まっていない。

P1（ポット予熱不足）	P2（ポット温度低下）	炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	ガラスがすすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	室温が高くなりすぎるまたは室温が上がらない	床暖パネルが温まらない ※	沸騰音がする ※	振動が大きい ※	表示部がくもる	電源プラグを差し直すと時刻表示が --:-- と表示する	処置方法
								●							コンセントに確実に差し込む
															ストーブの周囲や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする
															給油をし、送油バルブを開く
		●													空気抜きをする（7～8ページ参照）
		●													ゴム製送油管の折れを直す
		●													お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
			●	●											お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
															フィルタのほこりを掃除する
			●	●	●		●								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
		●							●						適正な位置に取り付け直す。自動運転にする
			●	●	●										おおっているものを取り除く。 お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
						●									お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
															お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
															お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
										●	●	●			お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
										●					規定水位の上限まで補充液を入れる（23 ページ参照）
										●	●	●			温水配管のつぶれを直す。温水ジョイントのコックを開く
															電源プラグが抜けていないか確認してから再点火操作する
●	●														⚠注意「電気配線の確認」（8 ページ参照）の内容を点検する
															直ちに部屋の換気をする。 「不完全燃焼防止装置」（19 ページ参照）の内容を点検する
													●		お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼する
														●	お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。電池がなくなってもバックアップ機能がはたらかないだけで、現在時刻を合わせれば通常どおり使用できます。

12 部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

ご注意

不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは、修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。

●コロナ純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。また、保証期間内であっても本体の保証が受けられません。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

項　目	内　容
使用期間により交換が必要な部品	バーナヘッド・バーナヘッドリング・電極・フレームロッド・パッキン類およびOリング(メンテナンス時分解した場合は必ず交換が必要です。)・排気管接続用Oリング[P40　4種D(フッ素)]
環境により劣化しやすい部品	給排気筒関係部品･各種制御基板･燃焼用送風機･ゴム製送油管･対流用送風機･イグナイタ
変質･不純灯油の使用により劣化しやすい部品	ポットバーナ･電磁ポンプ(送油用･給油用)･フロートスイッチ･フレームロッド

13 保管（長期間使用しない場合）

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検･手入れの項(21～23ページ)を参照し、次の要領で保管してください。

1.電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2.油タンクの送油バルブを閉じてください。

3.フィルタや対流ファンガードの掃除をしてください。(22ページ参照)

4.本体のごみやほこりを取ってください。

●掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

5.しめらせた布で本体の汚れを落としてから、からぶきしてください。

●ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

6.ストーブは据付けたまま保管してください。

●床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。(UH-Fタイプ)

●どうしても取り外して保管されるときは、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。

●次シーズンに据付けるときには、必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。

14 仕　様

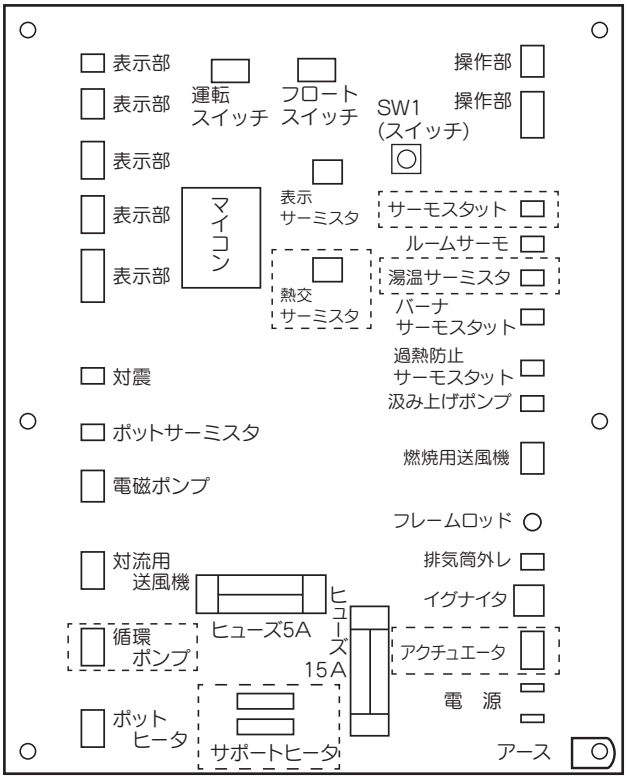
仕　様

注）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

型式の呼び			UH-FIR7023（基本型式UH-FIR7020）		FF-IR6823（基本型式FF-IR6820）	
種類			気化式・強制給排気形・強制対流形・※床暖房用			
点火方式			電気点火式			
使用燃料			灯油（JIS１号灯油）			
燃焼状態			最大	最小	最大	最小
燃料消費量	床暖房運転		8.03kW(0.780L/h)	2.26kW(0.220L/h)		
	ストーブ単独運転		7.79kW(0.757L/h)	2.26kW(0.220L/h)	7.79kW (0.757L/h)	2.26kW(0.220L/h)
発熱量	床暖房運転		28,890kJ/h	8,150kJ/h		
	ストーブ単独運転		28,040kJ/h	8,150kJ/h	28,040kJ/h	8,150kJ/h
熱効率	床暖房運転		86.6%	87.5%		
	ストーブ単独運転		87.0%	87.5%	87.0%	87.5%
暖房出力	床暖房運転		6.95kW 循環水量 150L/h（1回路時） 循環水量 180L/h（2回路時）（別売品使用）	1.98kW 循環水量 100L/h（1回路時・2回路時）		
	ストーブ単独運転		6.78kW	1.98kW	6.78kW	1.98kW
最大床暖房出力（床暖房運転）			1.36kW 循環水量 150L/h（1回路時） 循環水量 180L/h（2回路時）（別売品使用）			
サポートヒータ出力（サポートヒータ運転）			0.50kW 循環水量100L/h			
暖房のめやす	床暖房運転	温暖地	木造29.5㎡（18畳）まで コンクリート41.5㎡（25畳）まで			
		寒冷地	木造29.5㎡（18畳）まで コンクリート48.0㎡（29畳）まで			
	ストーブ単独運転	温暖地	木造29.5㎡（18畳）まで コンクリート39.5㎡（24畳）まで		木造29.5㎡（18畳）まで コンクリート39.5㎡（24畳）まで	
		寒冷地	木造29.5㎡（18畳）まで コンクリート46.0㎡（28畳）まで		木造29.5㎡（18畳）まで コンクリート46.0㎡（28畳）まで	
本体水容量			1.5L（器具内蔵シスターン上限水位時）			
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			シスターン大気開放			
外形寸法			高さ600mm　幅696mm　奥行337mm（置台を含む）			
質量			29.0kg		23.0kg	
電源電圧及び周波数			100V　50/60Hz			
定格消費電力	床暖房運転		最大消費電力　880/880W（点火時） 燃焼時消費電力　48/57W			
	ストーブ単独運転		最大消費電力　860/860W（点火時） 燃焼時消費電力　27/27W		最大消費電力　860/860W（点火時） 燃焼時消費電力　27/27W	
	サポートヒータ運転		最大運転時　625/625W			
待機時消費電力			0.7W			
床パネルの接続面積	床暖房運転		最大燃焼時14.9㎡（9畳）・最小燃焼時4.5㎡（3畳）			
	サポートヒータ運転		4.5㎡（3畳）			
温水配管接続口			外径φ8mmニップル			
給排気筒の型式の呼び			QU40-7		QU40-5	
給排気筒の呼び径			D40			
給排気筒の壁貫通部の孔径			φ75mm			
排気温度	床暖房運転		260℃以下			
	ストーブ単独運転		260℃以下			
電流ヒューズ			5A・15A			
安全装置			対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置 停電安全装置・過熱防止装置・不完全燃焼防止装置			
その他の装置			排気管抜け検知装置・燃焼用送風機異常検出装置・対流用送風機異常検出装置 過電流防止装置・※サポートヒータ過熱防止装置・※循環水過昇防止装置・異常温度検知装置 油切れ検知装置・油面異常検知装置			
付属品			給排気筒セット1組・メスオスエルボ1個・排気口ふた1個・※パックチューブ(2.5m)1本・本体固定金具A1個 本体固定金具B1個・ゴム製送油管(1m)1本・ゴム製送油管締付バンド2個・スリーブ1個・取扱説明書・工事説明書			

備　考　暖房のめやすは、一般社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板　端子配置図



注）- - - - - - 印の端子部は
(UH-Fタイプ)のみ対象です。

15 アフターサービス

■保証について

●このコロナ密閉式石油ストーブには保証書が付いています。（裏表紙に印刷されています。）
保証書は、必ず「お買いあげ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。
●保証期間はお買いあげいただいた日から 3 年間です。
●次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
●変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
●誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

●「故障・異常の見分け方と処置方法」(25・26 ページ) の項に従ってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名　②型式の呼び　③お買いあげ日　④故障の状況(出来るだけ具体的に)⑤ご住所・お名前・電話番号
●品名と型式はストーブに向かって右側面に表示してあります。
●修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは
●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間
●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後7年です。

16 据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

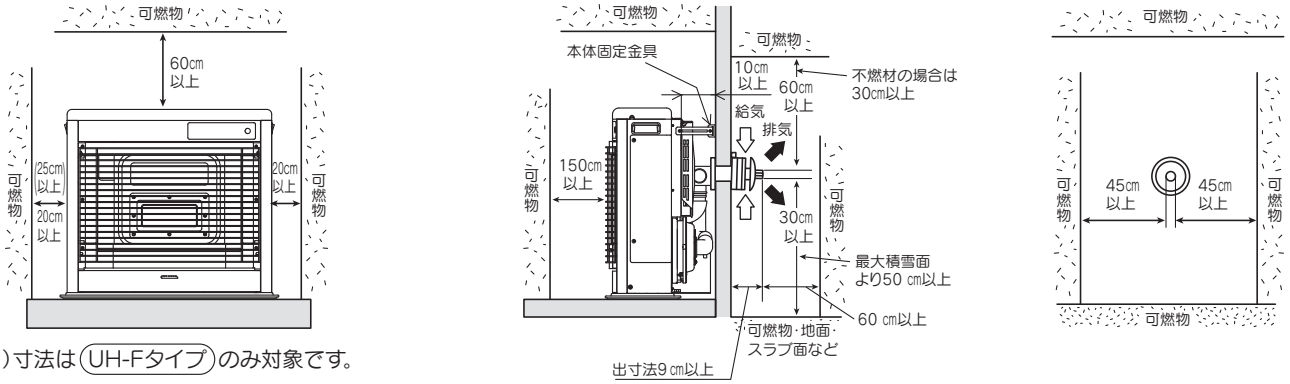
据付けや移設工事は販売店または据付け業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定および標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

標準据付け例

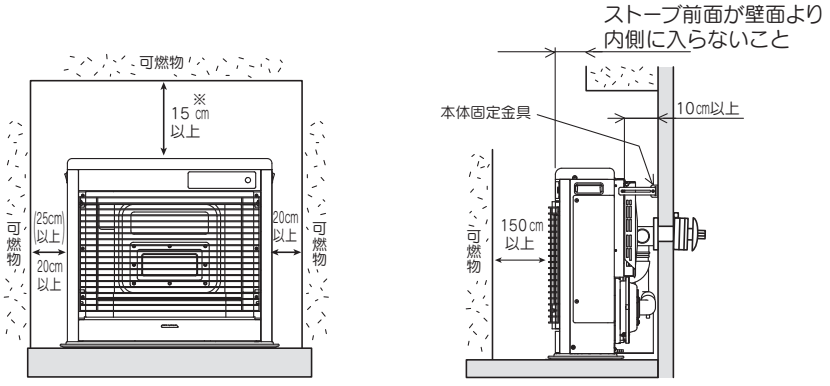
ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。



( )寸法は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

- ●側方障害物は、両側にあってもよいですが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
- ●前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
- ●給排気筒下面は地面から30cm以上離すようにしてください。
  なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。
- ●雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。

[マントルピースなどに設置する場合のストーブ周囲寸法]



( )寸法は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

防火性能認証品ですので※印の寸法で設置できます。

ご注意

- ●点検・手入れのためストーブ左右の離隔距離は、左側 (FFタイプ) 20cm以上、(UH-Fタイプ) 25cm以上、右側20cm以上にしてください。
- ●ストーブ下面に毛足の長いじゅうたんや熱に弱いものを敷かないでください。
- ●ストーブ前面付近には熱に弱いものを置かないでください。
- ●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
- ●壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。
- ●上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離をとってください。

給排気筒を延長する場合の注意

●ストーブ本体の給気ホースは切らずに接続してください。
●給気ホースは延長した排気管と同じ長さを延長してください。
●給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。
●標高８００m～１３００mで使用する場合は2m3曲がり以下、１３００m～１５００mで使用する場合は、1m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

●給排気筒トップが雪でふさがれない場所に設置してください。
落雪により給排気筒トップがふさがれたり破損するおそれのある場所には設置しないでください。
また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで異常燃焼を起こすことがあります。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

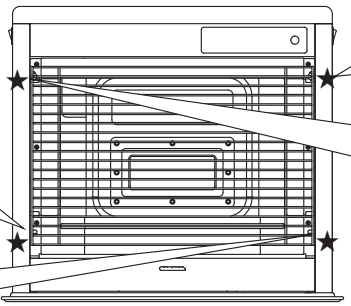
前面ガードの取外し（取付け）

●前面ガードの取外し・取付けの際は、ストーブにキズ等を付けないよう注意してください。
●前面ガードは★印部の上下左右４ヵ所で固定されています。
●取り外しは、下記のように行ってください。（取り付けは逆の手順となります）

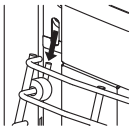
①前面ガードを持ち上げて、左右下側の取付け部分のロッドを手前に引き出します。



ご注意
取付け部分のロッドを引き出す際、手前に引き出し過ぎると前面ガード上部でストーブを傷つける場合があります。注意してください。



②そのまま前面ガードを下げて、左右上側の取付け部分のロッドを引き抜きます。



試運転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

■運転準備

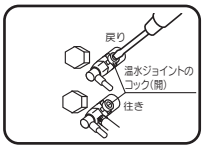
⚠注意 **電源プラグをコンセントに根元まで確実に差し込んでください。**

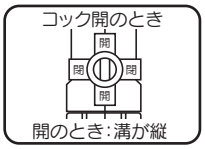
●現在時刻を確認してください。
現在時刻がずれている場合は、「現在時刻の合わせ方」（14ページ）を参照し、合わせてください。
●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
「■燃料切れの注意と空気抜きの方法」（7・8ページ）を参照してください。
●送油経路やストーブから油漏れがないことを確認してください。

●シスターンタンク内に循環液がないときは、循環ポンプを運転させないでください。故障の原因になります。

■循環液の給水方法およびエアー抜き方法 (UH-Fタイプ)

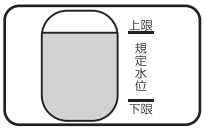
1. 器具の左背面にある往きと戻り両方の温水ジョイントのコックを「開」にしてください。
（●2回路配管の場合は、項目4、5を1回路ずつ行ってください。）
●配管途中にバルブがある場合は、バルブを全開にしてください。





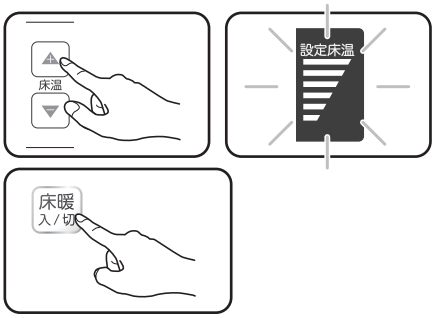
2. ストーブ左側面の給水口扉を開き、水位計の規定水位（上限水位）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）を入れてください。



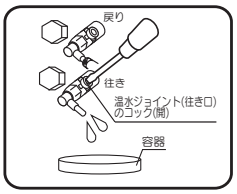


次のページへ続きます

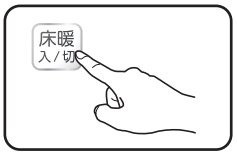
3. 床温ボタン ▲▼を同時に5秒間押し続けてください。
   ●循環ポンプが運転を開始します。
   （「設定床温」表示とグラフ表示が点滅します。）
   ●水漏れがあった場合は、循環ポンプを停止させてください。
   床暖ボタンを押すと循環ポンプを停止させることができます。



4. シスターンタンクの水位が下がるので上限水位まで循環液を給水してください。
   （シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。）
   ●温水配管施工などの関係で、エアーが抜けきらない場合は、次の方法があります。
   （温水往き口のコックを「閉」にして温水配管接続をはずし、コックを開いて循環液を少しずつ流し、エアーを抜く
   （循環液がこぼれないように容器を用意してください。））
   ※温水配管内のエアー抜きが不十分だと循環音が大きくなる事があります。
   この場合は再度エアー抜きを行ってください。

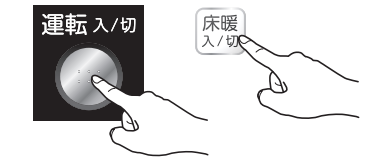


5. 温水配管経路に、水漏れのないことを確認してください。
6. 水漏れのないことを確認したら完了です。
   操作部の床暖ボタンを押してください。
   ●循環ポンプが停止します。

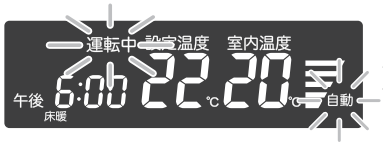


■点火（運転開始）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。

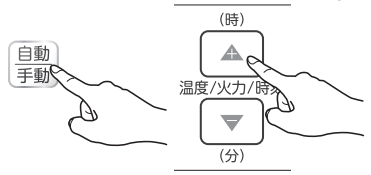
（UH-Fタイプ）はストーブ床暖房運転で試運転してください。



① 運転スイッチを押して「入」にしてください。
   ●"点火します"の音声と同時に「自動」表示が点灯し、「運転中」表示が点滅します。
   （工場出荷時は、自動運転に設定されています。）
   ●点火操作から着火まで約2分です。
   （室温によって着火までの時間が変わることがあります。）
   ●着火までに異常がないことを確認してください。

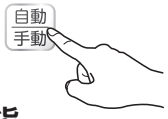


※② 床暖ボタンを押して、ストーブ床暖房運転にしてください。
   ※●温水配管経路に水漏れのないことを確認してください。



③ 自動 / 手動ボタンで、自動運転から手動運転に切り換えてください。
火力ボタン ▲▼を押してグラフが増減し火力が変わることと炎の状態を確認してください。（各火力で1分以上確認してください。）
   ●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎が混じっても異常ではありません。
   ●正常運転のめやすとして「故障·異常の見分け方と処置方法」（25～26ページ）のような現象のないことを確認してください。





※④ 床暖房パネルが暖かくなることを確認してください。

⑤ 自動/手動ボタンで自動運転に戻してください。

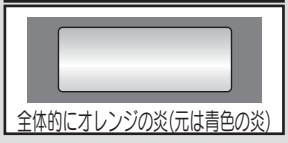
■炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で炎は多少変化します。

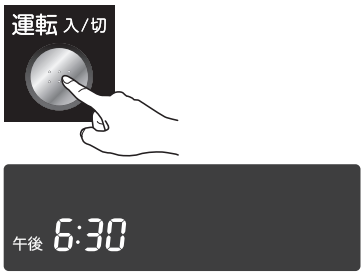
●青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）が混じっても異常ではありません。
・ホコリを吸気したためです。
・屋外の風が強いためです。
・海岸に近いためです。

●細かい（霧状の）水滴を吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。


青い炎の中に黄色い炎が混じる


全体的にオレンジの炎(元は青色の炎)

■消火（運転停止）※印は（UH-Fタイプ）のみ対象です。



運転スイッチを押して「切」にしてください。

- "消火します"の音声と同時に時刻表示以外のすべての表示が消灯し、消火します。
- 消火後は、本体内部が冷却するまで送風を継続し、約１０分後に燃焼用送風機、対流用送風機、※循環ポンプが停止します。

お願い

- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順に従い、試運転を行ってください。

⚠注意 初めてお使いになるときの注意

- 初めて運転するときは、空気抜きをしてもストーブ内のレベラタンクに灯油が溜まるまで[EL]が表示される場合があります。[EL]が表示された場合は、油タンクに給油して、ストーブの置台に灯油が漏れていないことを確認してから運転スイッチを押して「切」にしてください。もう一度運転スイッチを押して[EL]を解除し、ストーブが点火することを確認してください。
  再び[EL]を表示した場合は、上記の手順を再度繰り返し、ストーブが点火することを確認してください。
  ※運転スイッチを押しても[EL]が解除できなくなった場合は、電源プラグをコンセントから抜いてから、再度差し込むと[EL]が解除されます。
- 初めてお使いになるとき、電磁ポンプ（給油用）から空打ちする音（コトコト音）がすることがありますが異常ではありません。
- 初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。
  しばらくの間、窓をあけるなどをして部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。
- お部屋の窓（給排気筒トップ取付け場所より離れた所）などを少し開け、半日から 1 日程度「大火力」運転をしてください。

17 お客様ご相談窓口

お客様ご相談窓口

修理サービスや製品についてのご相談は型式名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記の窓口にご依頼ください

電話番号やアドレスは変更する場合がありますのでご了承ください。

コロナサービスセンター（全国共通番号　365日24時間受付）

TEL　フリーダイヤル　**0120-919-302**

携帯電話　ナビダイヤル　**0570-550-992**

ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります。

修理・アフターサービスに関するお問い合わせ

https://www.corona.co.jp/support/service/

■365日24時間修理依頼ができます。
部品保有年限が経過している製品は受付しないこともあります。
右記QRコードからアクセスできます。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

コロナ公式オンラインストア

お客様ご自身で簡単に交換いただける純正部品、別売部材を販売しております。製品内部の部品や交換の際に資格や技術が必要となる部品などは販売しておりません。

補修用性能部品の保有期間が過ぎている部品は、取り扱いを終了している場合があります。下記アドレスページ内の対応型式をよくご確認ください。

公式オンラインストア
CORONA STORE

https://ec.coronaweb.com/
（コロナ公式ホームページからもアクセスできます ）

株式会社コロナ
〒955−8510　新潟県三条市東新保7−7
TEL(0256) 32-2111〈代表〉
ホームページ　https://www.corona.co.jp/

926040R

コロナ 石油ストーブ保証書

型式	ご購入機種に○を付けてください。	
	FF-IR6823	UH-FIR7023
★お客様	お名前　　様	
	ご住所　〒(　　-　　)	
	電話　(　　)	
★お買いあげ日	年　月　日	
保証期間 対象部分	本　体	
保証期間 期間（お買いあげ日より）	3　年	
★販売店	住所・店名	
	電話　(　　)　－	

見本

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買いあげの日から左記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。
●ご販売店様へ
お買いあげ日、貴店名、住所、電話番号をご記入の上（★印欄に記入のない場合は、無効となります）、本書をお客様へお渡しください。

●お客様へお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入ください。
販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

《無料修理規定》

1.取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間中に故障した場合には、お買いあげ販売店が無料修理致します。
2.保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に依頼してください。なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
また、本品を直接送付される場合の送料は、お客様の負担となります。
3.ご転居の場合は事前にお買いあげ販売店にご相談ください。
4.ご事情により、本保証書に記入してあるお買いあげ販売店に修理がご依頼できない場合には、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）にお問合せください。
5.次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
（イ）使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
（ロ）取扱説明書、本体表示等によらないで使用された場合、または適切な点検・手入れを行わなかったことにより発生した不具合
（ハ）お買あげ後の取付場所の移動、輸送、落下等による故障および損傷
（ニ）火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害および、変質灯油、不純灯油、異質油（灯油以外の油または混入）による故障および損傷
（ホ）業務用としての使用、車両、船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障および損傷
（ヘ）本書にお買いあげ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がない場合
（ト）据付け工事の不備による故障
（チ）本書の提示がない場合
（リ）点検整備、および消耗品（Oリング、各種パッキン類、ゴム製送油管）の交換をされる場合
（ヌ）定期点検の費用
6.本書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid in Japan only.
7.本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）にお問合せください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書（本書29ページに記載）をご覧ください。
※アフターサービスや製品についてのお問い合せは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）にお問い合わせください。

株式会社 コロナ
〒955−8510　新潟県三条市東新保7−7
TEL(0256) 32-2111〈代表〉
ホームページ https://www.corona.co.jp/

205WA1216　-0 1 2 3 Ⓝ 2023